仕様書枚数　表紙共３枚
仕様書番号　第４８号
作成年月日　令和８年１０月２２日
作　成　者　座間駐屯地　業務隊
　　管理科　営繕班

産業廃棄物（廃蛍光管）処理役務

仕　様　書

陸上自衛隊座間駐屯地業務隊管理科

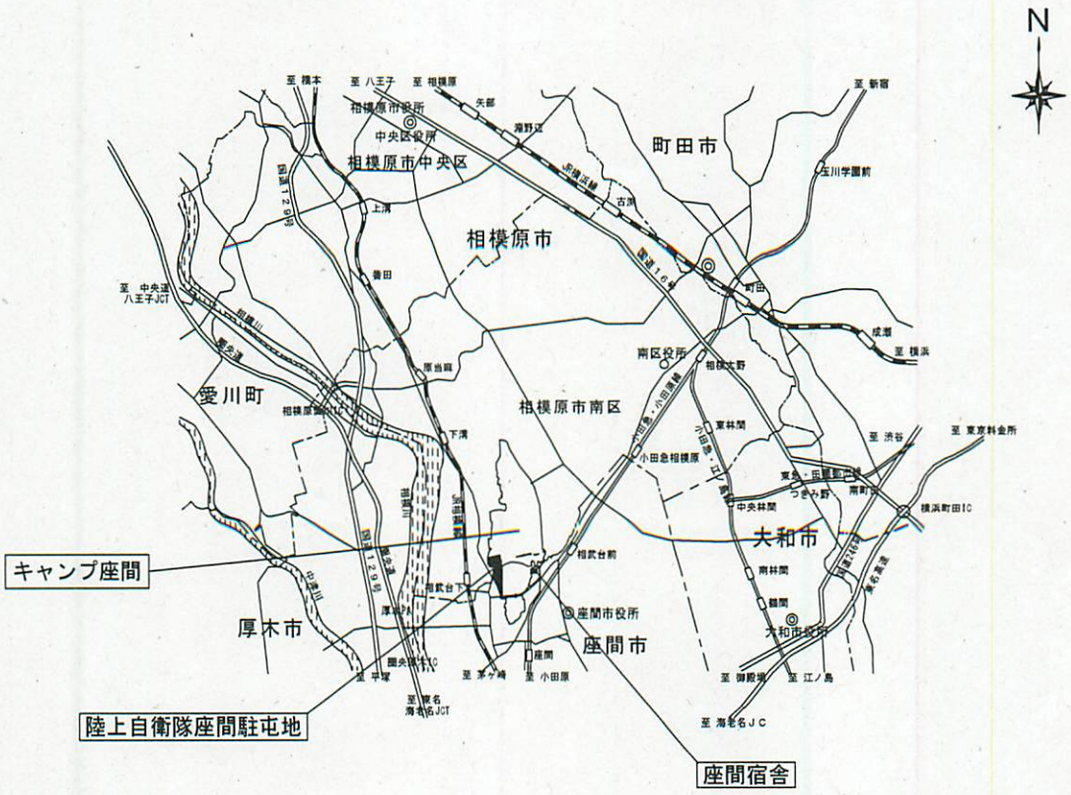
件　名	産業廃棄物（廃蛍光管）処理役務	図面番号	1／3
種　別	仕　様　書　（　表　紙　）	縮　尺	
陸上自衛隊座間駐屯地業務隊管理科			

仕　様　書

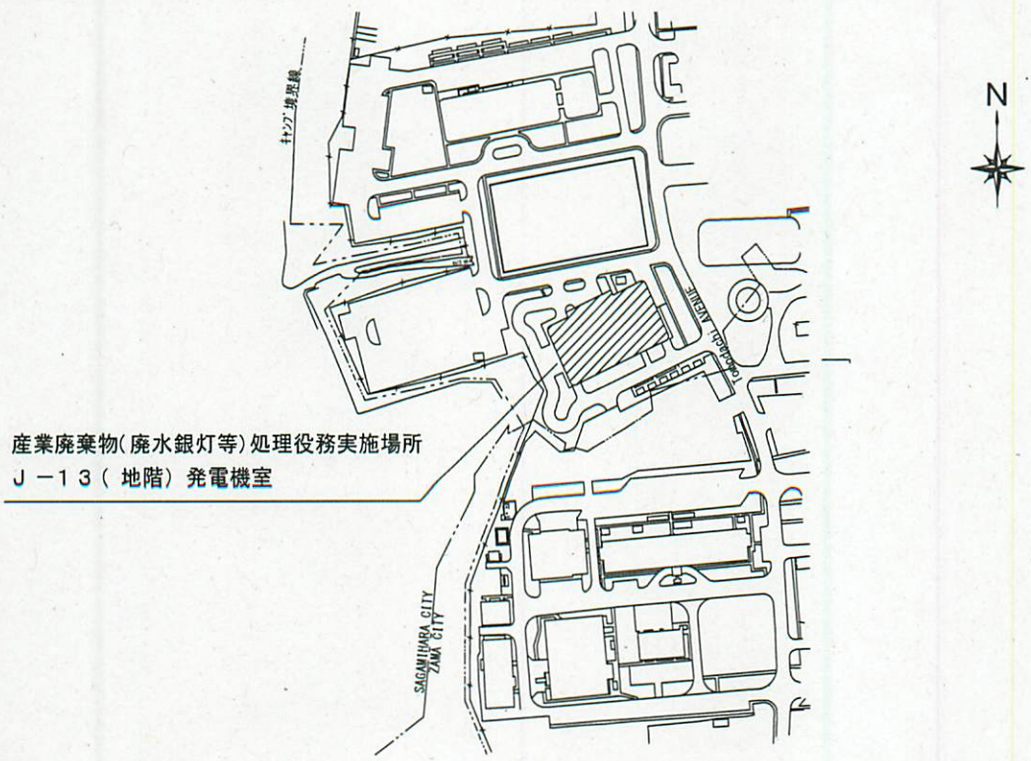
1　件　名
　産業廃棄物（廃蛍光管）処理役務
2　場　所
　神奈川県相模原市南区新戸２９５８番地　陸上自衛隊座間駐屯地内
3　概　要
　座間駐屯地内で発生する産業廃棄物（廃蛍光管）の収集運搬及び処理　１式
4　産業廃棄物の区分及び予定排出量は次表のとおりとする。

区　　分	予定排出量（ｋｇ）	備　考
廃蛍光管（破損品含む）	１８ｋｇ	９０本

5　産業廃棄物は、官側と事前に調整した日にＪ－１３（地階）発電機室から収集する。
　収集時間は土曜日、日曜日及び祝祭日を除く平日の０８時３０分から１６時３０分までとする。ただし１２時から１３時までの間は除く。
6　Ｊ－１３（地階）発電機室から収集する際には、廃棄物を割らないように収集する。
7　産業廃棄物の処理等
(1)　産業廃棄物管理票（Ａ票）の記載事項に不備のないよう確認の上、駐屯地外へ運搬する。
(2)　契約工期内に産業廃棄物管理票（マニフェスト）（Ｂ２、Ｄ、Ｅ票）を提出する。
　なお、産業廃棄物管理票は受注者が用意する。
8　入門手続き等
　座間キャンプ内への入門については、在日米陸軍が定める関係規則に従い次のとおりとする。
　受注者（作業員含む。）及び車両の座間キャンプ内への入門にかかる申請は官側で実施するため、受注後速やかに監督官が指示する書類を監督官に１部提出する。
(1)　米軍キャンプ座間入門者名簿
(2)　名簿に記載された事項を証明する次の内１点の書類の写し
　ア　運転免許証（表・裏）
　イ　パスポート
　ウ　マイナンバーカード（１６桁の個人番号が必要、入門当日本籍地が記載された６か月以内に発行された住民票の写しの提示が必要）
(3)　車両で入門する場合、入門当日に車検証、自賠責保険証、任意保険証（保障：対人３０００万円以上、対物３００万円以上）が必要



案内図　Ｓ＝１：Ｘ



配置図　Ｓ＝１：Ｘ

件　名	産業廃棄物(廃蛍光管)処理役務	図面番号	３／３
種　別	案内図・配置図	縮　尺	図　示
陸上自衛隊座間駐屯地業務隊管理科			

＜表 面＞

管理番号.....

廃棄物データシート（WDS）

※1 本データシートは廃棄物の成分等を明示するものであり、排出事業者の責任において作成して下さい。
※2 記入については、「廃棄物データシートの記載方法」を参照ください。

作成日　令和 8 年 10 月 22 日　　記入者　菊島技官

1	排出事業者	名称	座間駐屯地業務隊	所属	管理科		
		所在地	〒252-0326 神奈川県相模原市南区新戸2958	担当者	菊島技官	TEL	046-253-7670(内)2634
						FAX	046-253-7670(内)2644
2	廃棄物の名称	廃蛍光管					
3	廃棄物の組成・成分情報 （比率が高いと思われる順に記載）	主成分 他		MSDSがある場合、CAS No.			
	□ 分析表添付（組成）	・成分名と混合比率を書いて下さい。 ばらつきがある場合は範囲で構いません。 ・商品名ではなく物質名を書いて下さい。重要と思われる微量物質も記入して下さい。					
4	廃棄物の種類 □産業廃棄物	□汚泥　□廃油　□廃酸　□廃アルカリ ☑その他（　廃 蛍光管　）					
		※廃棄物が以下のいずれかに該当する場合 □石綿含有産業廃棄物　□水銀使用製品産業廃棄物　□水銀含有ばいじん等					
	□特別管理産業廃棄物	□引火性廃油　□強アルカリ（有害）　□指定下水汚泥　□廃酸（有害） □引火性廃油（有害）　□感染性廃棄物　□鉱さい（有害）　□廃アルカリ（有害） □強酸　□PCB等　□燃えがら（有害）　□ばいじん（有害） □強酸（有害）　□廃水銀等　□廃油（有害）　□14号廃棄物(有害) □強アルカリ　□廃石綿等　□汚泥（有害）					
5	特定有害廃棄物 （ ）には 混入有りは○、 無しは×、混入の 可能性があれば△ □ 分析表添付（廃棄物処理法）	アルキル水銀（ × ） 水銀又はその化合物（ × ） カドミウム又はその化合物（ × ） 鉛又はその化合物（ × ） 有機燐化合物（ × ） 六価クロム化合物（ × ） 砒素又はその化合物（ × ） シアン化合物（ × ） PCB（ × ）	トリクロロエチレン（ × ） テトラクロロエチレン（ × ） ジクロロメタン（ × ） 四塩化炭素（ × ） 1,2-ジクロロエタン（ × ） 1,1-ジクロロエチレン（ × ） シス-1,2-ジクロロエチレン（ × ） 1,1,1-トリクロロエタン（ × ） 1,1,2-トリクロロエタン（ × ）	1,3-ジクロロプロペン（ × ） チウラム（ × ） シマジン（ × ） チオベンカルブ（ × ） ベンゼン（ × ） セレン（ × ） ダイオキシン類（ × ） 1,4-ジオキサン（ × ）			
6	PRTR対象物質	届出事業所 （該当 ・ 非該当）、 委託する廃棄物の該当・非該当 （該当 ・ 非該当） ※ 委託する廃棄物に第1種指定化学物質を含む場合、その物質名を書いて下さい。					
7	水道水源における消毒副生成物前駆物質	生成物質：ホルムアルデヒド（塩素処理により生成） □ヘキサメチレンテトラミン（HMT）　□1,1-ジメチルヒドラジン（DMH） □N,N-ジメチルアニリン（DMAN）　□トリメチルアミン（TMA）　□テトラメチルエチレンジアミン（TMED） □N,N-ジメチルエチルアミン（DMEA）　□ジメチルアミノエタノール（DMAE）					
		生成物質：クロロホルム（塩素処理により生成） □アセトンジカルボン酸　□1,3-ジハイドロキシルベンゼン（レゾルシノール） □1,3,5-トリヒドロキシベンゼン　□アセチルアセトン　□2'-アミノアセトフェノン □3'-アミノアセトフェノン					
		生成物質：臭素酸（オゾン処理により生成）、ジブロモクロロメタン、ブロモジクロロメタン、ブロモホルム（塩素処理により生成） □臭化物（臭化カリウム等）					
8	その他含有物質 （ ）には 混入有りは○、 無しは×、混入の 可能性があれば△ □ 分析表添付（組成）	硫黄（ × ） ヨウ素（ × ） 硝酸（ × ） 銅（ × ） ホウ素（ × ）	塩素（ × ） フッ素（ × ） 亜鉛（ × ） アルミ（ × ） その他（ × ）	臭素（ × ） 炭酸（ × ） ニッケル（ × ） アンモニア（ × ）			
9	有害特性 （有・(無)・不明）	□爆発性　□引火性（　℃）　□可燃性　□自然発火性（　℃）　□禁水性 □酸化性　□有機過酸化物　□急性毒性　□感染性　□腐食性 □毒性ガス発生　□慢性毒性　□生態毒性　□重合反応性 □その他（　）						
10	廃棄物の物理的性状・化学的性状	形状（　）　臭い（　）　色（　）　比重（　）　pH（　） 沸点（　）　融点（　）　発熱量（　）　粘度（　）　水分（　）					
11	品質安定性	経時変化（有 (無)）有る場合は具体的に記入					
12	関連法規	危険物（消防法）・特化則（特定化学物質障害予防規則）・有機溶剤・毒劇物・悪臭					
13	荷姿	□容器（　）☑車両（ 軽トラック ）□その他（　）					
14	排出頻度 数量	頻度（ スポット・継続予定 ） （　）kg・t・ﾘｯﾄﾙ・m3・本・缶・袋・個　／年・月・週・日					

15	特別注意事項 （有・(無)）	※取り扱う際に必要と考えられる注意事項を記載 ・避けるべき処理方法、安全のため採用すべき処理方法 ・他の廃棄物との混合禁止 ・粉じん爆発の可能性 ・容器腐食性の可能性／注意点 ・廃棄物の性状変化などに起因する環境汚染の可能性 ・環境中に放出された後の支障発生の可能性（消毒用塩素等との反応により他の物質を生成し、水道取水障害に至る可能性等）　等

【参考】 その他の情報

・サンプル等提供　（ 均一ｻﾝﾌﾟﾙ有 ・ 不均一ｻﾝﾌﾟﾙ有 ・ ｻﾝﾌﾟﾙの一部分有 ・ ｻﾝﾌﾟﾙ無 ・ 写真有 ）

・産業廃棄物の発生工程等
「3廃棄物の組成・成分情報」を推定する根拠となる、使用原材料・有害物質・不純物の混入、排出場所がわかる発生工程の説明を書いてください。 工程前からの持ち込み成分があれば書いてください。
工程図への記入でも可。
（処理業者においては、不純物混入の可能性や廃棄物成分のブレ幅の推定、分析頻度等の判断材料となります。）

＜排出事業者及び処理業者内容確認欄＞

No.	内容確認日時	排出事業者担当者	処理業者担当者	備考

＜変更履歴＞

No.	変更日時	排出事業者担当者	処理業者担当者	変更内容

様式作成　環境省